

令和5（2023）年度 開講科目の授業題目・内容と担当教員

目 次

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
23001	外国語仏教学論著講読	落合 俊典 教授	3
23002	外国語仏教学論著講読	斉藤 明 特任教授	4
23003	外国語仏教学論著講読	池 麗梅 教授	5
23004	外国語仏教学論著講読	デレアヌ フロリン 教授	7
23005	外国語仏教学論著講読	幅田 裕美 教授	9
23006	外国語仏教学論著講読	藤井 教公 教授	10
23007	論文指導	落合 俊典 教授	11
23008	論文指導	斉藤 明 特任教授	12
23009	論文指導	池 麗梅 教授	13
23010	論文指導	デレアヌ フロリン 教授	14
23011	論文指導	幅田 裕美 教授	15
23012	論文指導	藤井 教公 教授	16
23013	仏教文献学方法論	落合 俊典 教授	17
23014	仏教文化学方法論	宮本 久義 講師	18
23015	南・東南アジア仏教文献学研究	デレアヌ フロリン 教授	20
23016	南・東南アジア仏教文献学演習	デレアヌ フロリン 教授	22
23017	南・東南アジア仏教文献学演習	Robert Kritzer 客員教授	24
23018	内陸アジア仏教文献学研究	斉藤 明 特任教授	25
23019	内陸アジア仏教文献学研究	幅田 裕美 教授	27
23020	内陸アジア仏教文献学演習	斉藤 明 特任教授	28
23021	内陸アジア仏教文献学演習	幅田 裕美 教授	29
23022	東アジア仏教文献学研究	落合 俊典 教授	30
23023	東アジア仏教文献学研究	池 麗梅 教授	31
23024	東アジア仏教文献学研究	藤井 教公 教授	33
23025	東アジア仏教文献学演習	落合 俊典 教授	34
23026	東アジア仏教文献学演習	池 麗梅 教授	35

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
23027	東アジア仏教文献学演習	藤井 教公 教授	36
23028	近現代仏教研究 (仏教学と生命倫理)	土山 泰弘 講師	38
23029	近現代仏教研究 (仏教学と環境問題)	土山 泰弘 講師	39
23030	文化人類学	棚橋 訓 講師	41
23101	仏教学特殊研究 (夏学期)	藤井 教公 教授 (代表)	43
23102	仏教学特殊研究 (冬学期)	デアヌ フロリン 教授 (代表)	44
23103	日本語 I	宮田 聖子 講師	45
23104	日本語 II	宮田 聖子 講師	46
23105	古文・漢文読解 I	田戸 大智 講師	48
23106	古文・漢文読解 II	小島 裕子 講師	50
23107	サンスクリット語	宮本 久義 講師	52
23108	古典チベット語	崔 境真 講師	54

科目番号	23001
科目名・単位数	外国語仏教学論著購読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	木曜日 5時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	湯用形著『漢魏両晋南北朝仏教史』撰文の解読的研究
授業の目的・概要	<p>近代中国仏教史学の泰斗湯用形の『漢魏両晋南北朝仏教史』の中から重要と思われる箇所を文献学的研究方法によって解読していく。</p> <p>湯用形は、欧米の批判的かつ文献学的な方法論を取り入れていることからその原典博捜は徹底している。本書を読解していくことによって原典の位置づけとその思想的意味が十分に理解されるようにしていく。</p>
到達目標	<p>中国仏教史研究の代表的な著述である本書の講読を通じて文献資料の取り扱いに習熟することが到達目標である。湯用形の著述は南北朝時代までであるので隋唐五代宋元明清は範疇外であるが、随時説明していくので中国仏教史研究の基本的文献の全体的把握は可能である。</p>
授業計画	<p>担当箇所を受講者が順次受け持ち、読解に取り組む。基本的な読解の方法は、講義室に備え付けられた叢書・全集等の研究参考書を実際に用いることで速やかに身に付くようになる。</p> <p>受講者は引用原典の比定にあたって原文を直接調べるのが肝要である。CBETA や SAT 等のテキストデータだけに頼って読解することは慎まなければならない。</p> <p>夏学期：①湯用形の学問。②中国仏教史研究の問題点。③湯用形と塚本善隆。④中国仏教史の基礎文献。⑤同つづき。⑥『漢魏両晋南北朝仏教史』概説。⑦同書撰文輪読（担当者決定）。⑧輪読つづき。⑨輪読つづき。⑩輪読つづき。⑪輪読つづき。⑫輪読つづき。⑬輪読つづき。⑭輪読つづき。⑮レポート試験。</p> <p>冬学期：①輪読つづき。②輪読つづき。③輪読つづき。④輪読つづき。⑤輪読つづき。⑥輪読つづき。⑦輪読つづき。⑧輪読つづき。⑨輪読つづき。⑩輪読つづき。⑪輪読つづき。⑫輪読つづき。⑬輪読つづき。⑭輪読つづき。⑮レポート試験。</p>
授業の方法	講義および演習形式で行う。出席者は事前に十分な訳注を行い、資料を集成してこることが求められる。
教員から学生へのフィードバック方法	担当箇所の発表後に整理した訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって訳注が一定程度に完成することを期す。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/

成績評価方法・基準	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習にはテキストデータだけの読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して訳注を完成させる。それに要する時間は2時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。2時間以上復習に当てる。
テキスト	湯用彤著『漢魏両晋南北朝仏教史』
参考文献	鎌田茂雄著『中国仏教史』第1巻～第6巻（東大出版会） 『定本中国仏教史』第1巻～第2巻（柏書房） 『塚本善隆著作集』（大東出版社） 吉川忠夫・船山徹『高僧伝』（岩波文庫）
履修上の注意	講義・演習に関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23002
科目名・単位数	外国語仏教学論著購読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	金曜日 4時限目
担当教員氏名	斉藤 明 特任教授
授業題目	Hirakawa Akira (Paul Groner tr.), <i>A History of Indian Buddhism</i> 講読
授業の目的・概要	本書は平川彰『インド仏教史』上巻の英訳である。律蔵を中心とする初期仏教研究を専門とし、アビダルマ教学および大乘仏教思想に精通し、大乘仏教の成立論にも大きな一石を投じた著者の仏教研究は、今なお仏教学におけるかけがえのない道標となっている。本書は、著者の積年の研究成果を凝縮した本格的な入門書でもあり、日本仏教研究者として知られる訳者の英訳も適確で読みやすい。本講義では、昨年度に引きつづき、第9章のアビダルマ文献以降を、とくに仏教術語の現代語訳（英訳、日本語訳）をめぐる諸問題を分析・考察しながら授業を進める。
到達目標	仏教の教理と歴史の概要を英文で読み、考え、適確に理解することを旨とする。
授業計画	夏学期 1 Introduction 2-3 Ch. 9 Abhidharma Literature 4-6 Ch. 10 The Organization of the Dharmas in the Abhidharma 7-10 Ch. 11 Buddhist Cosmology and the Theory of Karma 11-12 Ch. 12 Karma and Avijñapti-rūpa 13-15 Ch. 13 The Elimination of Defilements and the Path to Enlightenment

	冬学期 1-2 Ch. 14 The Evolution of the Order after Aśoka 3-4 Ch. 15 Mahāyāna texts Composed during the Kuṣāṇa Dynasty 5-8 Ch. 16 The Origins of Mahāyāna 9-11 Ch. 17 The Contents of Early Mahāyāna Scriptures 12-15 Ch. 18 Theory and Practice in Early Mahāyāna Buddhism
授業の方法	講義と演習を交えながら講読を行う。必要な関連資料は、随時配布する。参考文献ならびに関連研究は授業の中で紹介する。授業は英語を基本とするが、必要に応じて日本語でも対応する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭で質疑応答を行うとともに、コメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点およびレポートにより、通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には3時間、復習には1時間の時間をかけること。
テキスト	Hirakawa Akira, tr. and ed. by Paul Groner, <i>A History of Indian Buddhism: From Śākyamuni to Early Mahāyāna</i> , Delhi: Motilal Banarsidass, 1991.
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23003
科目名・単位数	外国語仏教学論著購読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	金曜日 2時限目
担当教員氏名	池 麗梅 教授
授業題目	方廣鋁著『大蔵経研究論集（上）』講読
授業の目的・概要	本書は漢文大蔵経の歴史を研究する上で必要不可欠とされる名著の一つである。本書の講読によって、写本大蔵経から宋元時代の刊本大蔵経に至るまで、中国と朝鮮半島における漢文大蔵経の成立と伝播を全体的に理解することを目的とする。
到達目標	本書を講読することによって、受講者が漢文大蔵経の歴史を体系的に理解し、個々の大蔵経に対して独自の視点と問題意識を持って調査・研究を深めていけるようになることが目標である。
授業計画	夏学期 第1回 概説

	<p>第 2-8 回 写本大蔵經の編纂、種類と系統 第 9-15 回 開宝蔵の刊刻に関わる問題</p> <p>冬学期 第 1 回 概説 第 2-8 回 天台教典の入蔵について 第 9-15 回 契丹蔵について</p>
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて、講読していく。テキストを翻訳するだけでなく、その記述内容を分析して問題点を指摘した上で、関連研究の現状ならびに今後の展望についての受講者自身の考えも踏まえて発表してもらいたい。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	方廣鋁著『大蔵經研究論集（上）』、桂林：広西師範大学出版社、2021年。
参考文献	方廣鋁著『大蔵經研究論集（下）』、桂林：広西師範大学出版社、2021年。
履修上の注意	積極的な授業参加が望まれる。担当者は発表原稿を人数分用意すること。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23004
科目名・単位数	外国語仏教学論著購読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	月曜日 4時限目
担当教員氏名	デアヌ フロリン 教授
授業題目	Traditional Abhidharma Philosophy and Terminology 部派佛教系のアビダルマ思想及び教義用語
授業の目的・概要	We shall focus on Abhidharma doctrinal system as reflected in Vasubandhu's <i>Abhidharmakośabhāṣya</i> 俱舍論. For this, we shall rely mainly on relevant passages from the text in its Sanskrit original and two Chinese translations (Paramārtha's and Xuanzang's). We shall render these passages into English as well as Japanese, also consulting the existing translations in both languages. Before embarking on reading from the original and traditional translations, I shall give a short introduction of the history of the Northern (Sarvāstivādin) Abhidharma literature directly relevant to the formation of the <i>Abhidharmakośabhāṣya</i> .
到達目標	-- Gain knowledge of the doctrinal system and history of the Abhidharma literature. -- Familiarise oneself with the English style used in Buddhist studies. -- Improve English language skills (focusing on intensive reading while also paying attention to listening, speaking, and writing abilities). -- Improve reading and translation skills from canonical languages.
授業計画	Summer Semester 夏学期 (1) Overall aim and methodology (2)-(3) Historical and philological background of the <i>Abhidharmakośabhāṣya</i> (4)-(11) Readings from Chapter <i>Mārgapudgalanirdeśa</i> , verses 5-9 (stanzas and commentary) (12)-(14) Readings from Chapter <i>Mārgapudgalanirdeśa</i> , verses 10-13 (stanzas and commentary) (15) Students' presentations Winter Semester 冬学期 (1)-(9) Readings from Chapter <i>Mārgapudgalanirdeśa</i> , verses 14-24 (stanzas and commentary) (10)-(14) Readings from Chapter <i>Mārgapudgalanirdeśa</i> , verses 25-27, 33-44 (stanzas) (15) Students' presentations
授業の方法	-- In classes (1) to (3) in the Summer Semester, I shall give lectures on the history of Abhidharma literature and scholastics, focusing on the Sarvāstivādin system which was most influential in the shaping of the AkBh. -- The last class of each semester is reserved for students' presentations.

	-- For the rest of the classes, students are expected to prepare in advance the materials scheduled to be read and analysed.
教員から学生へのフィードバック方法	-- 口頭による分析 -- メール等による分析（特に資料の紹介や文献分析の場合）
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習：2時間 復習：2時間 授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。
テキスト	P. Pradhan ed. <i>Abhidharmakośabhāṣya of Vasubandhu</i> . 1975 (2 nd edition). 尊者世親造《阿毘達磨俱舍論》玄奘譯 T vol. 29 (No. 1558) 婆藪盤豆造《阿毘達磨俱舍釋論》真諦譯 T vol. 29 (No. 1559)
参考文献	U. Wogihara ed. <i>Sphuṭārthā Abhidharmakośavyākhyā: The Work of Yaśomitra</i> . Tokyo: Sankibo Buddhist Book Store, [1936] 1989. Louis de la Vallée Poussin, traduction et annotation. <i>L'Abhidharmakośa de Vasubandhu</i> . 6 vols. Bruxelles: Institut Belge des Hautes Études Chinoises. [1923-1931] 1971. Louis de la Vallée Poussin, French translation; Gelong Lodrö Sangpo, annotated English translation. <i>Abhidharmakośa-Bhāṣya of Vasubandhu</i> . 4 vols. Delhi: Motilal Banarsidass Publishers, 2012. Bhikkhu KL Dhammajoti 法光. <i>Sarvāstivāda Abhidharma</i> . 4th edition. Hong Kong: Centre of Buddhist Studies, The University of Hong Kong, 2009.
履修上の注意	Participants must have basic knowledge of English as well as of Sanskrit and/or Classical Chinese. (止むを得ない状況により、オンライン授業を行うことがあります。)
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23005
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	木曜日 3時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業題目	Dieter Schlingloff, Ein buddhistisches Yogalehrbuch 講読
授業の目的・概要	本書は中央アジアに伝承されたサンスクリット語の瞑想修行の教科書である。本書の講読によって瞑想修行の実践を概観し、断片資料からテキストを校訂する方法を学ぶ。
到達目標	厳密な文献研究の方法を理解することを目標とし、あわせてドイツ語の研究書を使いこなせるようにすることをめざす。
授業計画	夏学期 第1回 概説 第2回 中央アジア写本読解の基礎 第3回 テキスト校訂の基礎 第4回 説一切有部の修行体系 第5-15回 テキスト講読 冬学期 第1-15回 テキスト講読
授業の方法	テキストで論述されている内容を概観し、問題点を議論する。研究対象となっている文献については適宜、原典および写本をあわせて参照し、講読する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること
テキスト	Schlingloff, Dieter 1964: Ein buddhistisches Yogalehrbuch. (Sanskrittexte aus den Turfanfunden 7). (Deutsche Akademie der Wissenschaften zu Berlin. Institut für Orientforschung. Veröffentlichung 59). Berlin: Akademie-Verlag, 1964 (Unveränderter Nachdruck der Ausgabe von 1964 unter Beigabe aller seither bekannt gewordenen Fragmente. hrsg. Jens-Uwe Hartmann und Hermann-Josef Röllicke. Buddhismus-Studien 5. München: Iudicium, 2006).
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	コロナウイルス感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23006
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	木曜日 2時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業題目	Kazuo Kasahara ed. <i>A History of Japanese Religion</i> 講読
授業の目的・概要	本書を講読して日本仏教形成の過程と、その発展、さらにその基盤としての日本宗教思想全体についての理解を深めることを目的とする。
到達目標	本書を講読することによって新知見を増し、そこから発展して受講者自身が関連トピックを見つけ、文献資料を渉猟調査し、研究することによって自身の問題意識を拡充することを目標とする。
授業計画	前期第1～第15週までに第10章 The Nichiren Sect を講読する (pp.255-283)。後期第16週～第30週の間、第11章 Women and Buddhism まで(pp.285-298)講読の予定。
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて講読する。担当者はテキストの記述内容自体について、あるいは、それに関連する事項、またその背後にある問題について、自身が考え、調べたものを発表してもらいたい。 また、コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うこともあり得るので注意が必要である。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点(出席率を含む)にて通年で評価。オンライン授業の場合における課題提出も評価に加える。
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間以上をかけること。
テキスト	教場でコピーを配布。
参考文献	教場でテキストの内容ごとにその都度指示する。
履修上の注意	出席励行のこと。担当者は発表原稿を人数分用意する。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23007
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	火曜日 4時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆におけるテーマ設定から内容の指導、体裁、参考文献の取り扱い方、提出までに必要な事項等を教授する。
到達目標	仏教文献学の方法を習得すること。仏教文献は様々な言語で書かれていることから基本的言語の習得の上に研究テーマを設定し、論文を書けるようになることが目標である。
授業計画	最初に研究テーマの設定に関して討論を重ね、具体案作成へ向けて、いくつかのレポートを作成していく。次いで受講生は、先行研究論文を読破し、先行研究の問題点についてレポートの提出が求められる。このレポートを基に新たな観点や新知見の可能性について論議検討し、研究テーマの絞り込みに努める。夏学期：①研究論文の書き方。②研究の方法論。③研究資料の探索方法。④外国語文献の探索方法。⑤研究テーマの選定。⑥複数の研究テーマ。⑦研究テーマのデッサン。⑧研究チャートの作成。⑨研究文献のフィールドワーク。⑩研究テーマ討論。⑪研究テーマ変更の方法。⑫研究会の案内。⑬学会の案内。⑭発表の方法。⑮発表。討論。冬学期：①発表と討論の方法。②討論の文句。③先行研究の徹底的解説。④外国語先行研究の解説方法。⑤当該研究者の見つけ方。⑥文字資料の扱い方。⑦活字本と刊本。⑧刊本と写本。⑨写本の読解方法。⑩写本の所在。⑪写本の探索方法。⑫写本に関する書誌学的知識。⑬文献学。⑭文献学の確立。⑮発表と討論
授業の方法	受講生の研究してきたレポートについて適宜問題点を指摘し、レヴェルアップを図る。また重要資料を図書館その他から取り寄せ、その解説を行い、実践的かつ重厚な読解力研究力を養成していく。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	研究テーマが定まり次第テキストや先行研究論文の集成の指導を行う。
参考文献	研究テーマ決定に従って参考文献を探索する。参考文献の探し方についても指導を行う。
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23008
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	火曜日 4時限目
担当教員氏名	斉藤 明 特任教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆に際してのテーマの設定、研究に必要な資料や参考文献の収集、適切な研究方法などを指導する。
到達目標	学位論文に関する毎回の報告と指導を踏まえ、関連する学術論文の作成方法を学んだ上で、学位論文の完成を目ざす。
授業計画	夏学期 1 導入と解説（論文とは何か：目的、方法等） 2 論文のルール 3 学位論文のテーマ設定をめぐって 4-15 報告と議論、および指導 冬学期 1 進行状況の報告と展望 2-15 報告と議論、および指導
授業の方法	学生が用意してきたレポートや研究の部分的な成果をもとに、コメントと質疑応答、ならびに討論を交えながら授業を進める。
教員から学生へのフィードバック方法	個別に対面で、あるいはメールでコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点により、通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には5時間、復習には1時間の時間をかけること。
テキスト	必要に応じて授業の中で指示する。
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	論文の完成に向けた地道な取り組みが期待される。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23009
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	木曜日 5時限目
担当教員氏名	池 麗梅 教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に向けて、研究テーマ、問題の設定、論文の構成、研究の方法、必要な文献、原典の翻訳・解釈などにわたって、個別に指導する。
到達目標	合理的な研究計画に従って、研究の方法を習得しながら、学位論文の完成を目指す。
授業計画	研究テーマによって、個別に協議検討した上で決定する。
授業の方法	論文執筆者が準備段階ごとに提示する研究成果（問題意識も含めて）をもとに、コメント、討論、または助言などを行う。
教員から学生へのフィードバック方法	個別に対面で、あるいはメールでコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること。
履修上の注意	合理的な研究計画の立案と、研究遂行に向けた地道な取り組みが望まれる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	23010
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	金曜日 5時限目、水曜日 5時限目
担当教員氏名	デアヌ フロリン 教授
授業の目的・概要	PhD tutorials are designed to help doctoral students to prepare and write their theses. Apart from reading and analysing primary and secondary sources, students are required to submit papers reflecting the progress of their work three times per semester. We shall also explore together specific problems and methodological strategies.
到達目標	Each semester must be a clear step in the process of writing the MA and/or PhD thesis.
授業計画	To be decided with each individual student
授業の方法	We shall combine presentations done by the students with critical analysis and reading together difficult passages.
教員から学生へのフィードバック方法	-- 口頭による分析 -- メール等による分析 (特に資料の紹介や文献分析の場合)
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点 (論文指導への積極参加) にて通年で評価
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及び必要な時間	予習: 2時間 復習: 2時間 授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。
テキスト	To be decided with each student
参考文献	To be decided with each student
履修上の注意	The MA thesis should be a solid study (together with an edition and translation of relevant passages), clearly argued and showing familiarity with the research topic. The PhD thesis must be an original contribution to a particular subject in Buddhist studies based upon meticulous philological and historical work. (止むを得ない状況により、オンライン授業を行うことがあります。)
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23011
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	木曜日 4時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に必要な方法を習得することを目的とする。テーマの設定、研究史の把握、必要な文献の選択、文献解読の方法、写本読解の方法、批判テキストの分析方法などを指導する。
到達目標	仏教研究に必要な基礎能力を身につけ、学位論文を完成することを目標とする。
授業計画	受講生の学問的関心と研究テーマにそって、個別に相談し、決定する。
授業の方法	受講生の関心と研究テーマについて議論し、その研究テーマにふさわしい文献を選択する。研究テーマと文献に関する研究史を調査し、論文の内容と構成を決定する。論文の進捗段階に合わせて、論文原稿を議論する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、論文原稿等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	論文の構想をまとめ、文献資料を調査し、論文原稿を準備すること。授業でのコメントや議論を参考に論文原稿を訂正すること。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要なテキストを用いる。
参考文献	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要な文献を用いる。
履修上の注意	積極的な問題意識を持って、論文の完成に向けて地道に取り組むことが望まれます。 コロナウイルス感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	23012
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	火曜日 4時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業の目的・概要	学位論文執筆のためのテーマの選択から、執筆完成に至るまでの全過程における事柄について指導し、教授する。論文テーマの選定、先行業績の調査、文献資料の渉猟と蒐集の方法、選定資料の読み込み、執筆内容の吟味などについて、受講者のそれぞれのテーマ、それぞれの段階に応じて指示し、論文の完成を目指す。
到達目標	受講者それぞれの修士論文、博士論文の完成を目指す。
授業計画	第1～5講 テーマの選択・設定に関する指導 第6～9講 テーマに関わる先行業績文献資料の読み込み 第10講以降 執筆内容の吟味と指導
授業の方法	授業日、授業時間はあらかじめ設定されているものの、受講者との話し合いにより、双方の都合で決定する。そのためあらかじめの打ち合わせが必要である。また、コロナウイルス感染状況に応じて、対面式授業からオンライン方式に切り替えることもありうる。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（出席率を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること
テキスト	論文執筆者が選択し、提示する。
参考文献	教場でテキストの内容ごとにその都度指示する。
履修上の注意	出席励行のこと。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23013
科目名・単位数	仏教文献学方法論 4単位
科目ナンバリング	3-4 (1-2)
時限	火曜日 3時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	仏教写本研究方法論—敦煌本・日本古写経—
授業の目的・概要	<p>近年に至って急速に敦煌本や日本古写経の画像閲覧が容易になってきた。そこで注目されるのは従前の刊本・活字本に基づいて考察研究されてきた文献テキストを一から見直す環境が揃ってきたことである。しかし、その範囲が広く手掛けるのに些か躊躇せざるを得ない場合もある。</p> <p>そこで敦煌本の取り扱い方法と併せ日本古写経の見方を教示していく。写本の世界を習得するには写本に直に親しむのが近道であるが、日本古写経研究所が有する写本はその良き道案内となるであろう。</p>
到達目標	<p>仏教写本を豊富に有している機関は世界でも限られており、それらの機関を訪問して実際に閲覧調査することは極めて困難となっている。しかし、画像等で研究が十分できない場合には熟覧調査が必須となってくる。その場合に基本的な文献学的知識を予め修得しておくことは肝要である。本講の到達目標はそこに在る。</p>
授業計画	<p>夏学期：①仏教文献学の要諦。②～④刊本と写本。⑤～⑥敦煌本研究入門。⑦～⑩日本古写経研究入門。 ⑪～⑮具体例をあげその研究法を示す。</p> <p>冬学期：①～③『敦煌秘笈目録』の検討。④～⑥李盛鐸旧蔵本⑦～⑩ペリオ本 (P.2001) と日本古写経 (奈良写経『南海寄帰内法伝』)。⑪～⑮敦煌本と日本古写経の研究のまとめ。</p>
授業の方法	<p>講義および演習形式で授業を行う。受講者は事前に与えられた課題について準備してくることが求められる。</p>
教員から学生へのフィードバック方法	<p>担当箇所の発表後に整理した訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって訳注が一定程度に完成することを期す。</p>
学位授与方針との関連	<p>https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</p>
成績評価方法・基準	<p>レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	<p>予習にはテキストデータだけの読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して訳注を完成させる。それに要する時間は2時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。</p>
テキスト	<p>テキストを随時配布</p>
参考文献	<p>『敦煌学大辞典』（上海辞書出版社。1998年） 『古写経—聖なる文字の世界—』（京都国立博物館編。2004年） 藤枝晃『文字の文化史』（岩波書店。1982年）</p>
履修上の注意	<p>研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。</p>
連絡方法	<p>初回の授業で説明する。</p>

科目番号	23014
科目名・単位数	仏教文化学方法論 4単位
科目ナンバリング	4-4 (1-2)
時限	集中講義(夏・冬学期) ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	宮本 久義 講師(元東洋大学教授)
授業題目	道をめぐるインド文化論
授業の目的・概要	<p>人はなぜ移動するのかという問題は、人間の歴史的・文化的営為を読み解くための重要なポイントであり、道はそのキーワードのひとつであると考えられる。道は、民族移動の道、交易の道、巡礼や求法の道、文化伝播の道、民族独立の道などさまざまな要素を持っている。いろいろな地図を見ながら、そこにあらわれるさまざまな歴史と文化の問題を一緒に考えていきたい。</p> <p>釈尊ブッダの求道と伝道の道や、法顕・玄奘・義浄など求法僧の辿った道を手始めに、スリランカや東南アジア、中国、日本への仏教の伝播などを概説する。また、仏教の八大霊場と比較する意味で、ヒンドゥー教の聖地の分類やその特徴を考察しつつ、仏教とヒンドゥー教の複合的聖地であるカイラーサやヴァーラーナシーなどの現在の聖地信仰の実態にも触れる。さらに、イブン・バットゥータの『三大陸周遊記』やマルコ・ポーロの『東方見聞録』、鄭和の西洋下りの記録『瀛涯勝覧』などを資料として、イスラーム世界やキリスト教世界、中国世界とインドの繋がりにも触れる予定である。</p>
到達目標	インドを中心とする南アジアを対象として道の文化史を考えると、そこにはその地域的特殊性ととも、全世界に共通する普遍性も浮かび上がってくるであろう。それらを理解し、地理・歴史と文化・思想が緊密に結びつく様相を分析・考察できるようになることを目標としたい。
授業計画	<p>夏学期</p> <p>第1回：南アジアのトポロジー</p> <p>第2回：先史以来の道の動態・古代インドの道</p> <p>第3回：ブッダの求道と伝道の道</p> <p>第4回：仏教の八大霊場</p> <p>第5回：『法顕伝』とその関連資料</p> <p>第6回：法顕の求法の旅の目的とたどった道</p> <p>第7回：『南海寄帰内法伝』とその関連資料</p> <p>第8回：義浄の求法の旅の目的とたどった道</p> <p>第9回：『大唐西域記』とその関連資料</p> <p>第10回：『大唐西域記』に見る玄奘のたどった道(1)</p> <p>第11回：『大唐西域記』に見る玄奘のたどった道(2)</p> <p>第12回：『大唐西域記』における地名同定の問題点</p> <p>第13回：『瀛涯勝覧』に見る鄭和の西洋下り(1)</p> <p>第14回：『瀛涯勝覧』に見る鄭和の西洋下り(2)</p> <p>第15回：日本における聖地巡礼</p> <p>冬学期</p>

	<p>第1回：ヒンドゥー教の宗教思想 第2回：ヒンドゥー教の聖地 第3回：プラーナ聖典における「マーハートミヤ」 第4回：ブッダガヤーとガヤー 第5回：ヴァーラーナシーとサールナート(1) 第6回：ヴァーラーナシーとサールナート(2) 第7回：カイラーサ山とマーナサローヴァラ湖(1) 第8回：カイラーサ山とマーナサローヴァラ湖(2) 第9回：中世インドを旅した人々 第10回：イスラームの来た道 第11回：イブン・バットゥータの『三大陸周遊記』 第12回：マルコ・ポーロの『東方見聞録』 第13回：キリスト教の来た道 第14回：フランシスコ・ザビエルの伝道 第15回：総括</p>
授業の方法	こちらで用意した配布資料をもとに講義を進めていく。漢文やサンスクリットの原典を使用するときには、できるだけわかりやすく解説する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする。また必要があれば、メールでコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習・復習ともに120分程度の時間をかけてほしい。
テキスト	教場にて（オンライン授業の場合は添付ファイルで）資料を配布する。
参考文献	小西正捷・宮本久義編『インド・道の文化誌』春秋社、1995年 水谷真成訳『大唐西域記』平凡社、1972年 義浄撰、宮林昭彦・加藤栄司訳『南海寄帰内法伝』法蔵館、2004年 長沢和俊訳註『法顕伝・宋雲行紀』平凡社、1975年 馬敏著、小川博訳注『瀛涯勝覧』吉川弘文館、1969年 その他、講義中に適宜教示する。
履修上の注意	講義中は常にインドの地図を参照し、インドの地理と文化が徹底的に頭に入るように努力していただきたい。 ※コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインで授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	23015
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7A1-8 (1-3)
時限	月曜日 3時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業題目	Mainstream Buddhist Doctrines and Their Re-interpretation in Mahāyāna Buddhism 大乘佛教に於ける初期・部派佛教教義の再解釈
授業の目的・概要	<p>We shall read and discuss key passages from the <i>Vimalakīrtinirdeśa</i> (Chapter III), an early Mahāyāna scripture which has left a major imprint on the history of Buddhist thought and spirituality. Doctrinally, the text is closely connected to the Prajñāpāramitā literature, displaying original developments in its treatment of the <i>sūnyatā</i> concept and the place of the lay followers.</p> <p>After an overview of the philological, historical, and philosophical background of the text, we shall read and translate passages from the Sanskrit original and compare it to the Tibetan and Chinese versions as well as to modern renderings into Japanese, English, etc.</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> -- Understand the peculiarities and place of the <i>Vimalakīrtinirdeśa</i> in the larger context of Mahāyāna literature. -- Gain detailed knowledge of the basic tenets and their historical background. -- Hone philological skills (editing, translating, annotating) necessary to work with primary sources. -- Improve knowledge of Sanskrit, Classical Tibetan, Classical Chinese, and Classical Japanese (kundoku style).
授業計画	<p style="text-align: center;">Summer Semester 夏学期</p> <p>(1) Overall aim and methodology (2) Introduction to the <i>Vimalakīrtinirdeśa</i>: Primary sources, modern translations, and secondary literature (3) Introduction to the <i>Vimalakīrtinirdeśa</i>: Formation, historical background, and key doctrines and practices (4)-(9) Readings: <i>Vimalakīrtinirdeśa</i> (Taisho Study Group ed. pp. 75-81 and corresponding Tibetan and Chinese [Zhiqian, Kumārajīva, Xuanzang] translations) (10)-(14) Readings: <i>Vimalakīrtinirdeśa</i> (Taisho Study Group ed. pp. 82-87) and corresponding Tibetan and Chinese translations) (15) Students' presentations</p> <p style="text-align: center;">Winter Semester 冬学期</p> <p>(1)-(8) Readings: <i>Vimalakīrtinirdeśa</i> (Taisho Study Group ed. pp. 88-97 and corresponding Tibetan and Chinese translations) (9)-(14) Readings: <i>Vimalakīrtinirdeśa</i> (Taisho Study Group ed. pp. 98-109 and corresponding Tibetan and Chinese translations) (15) Students' presentations</p>

授業の方法	In classes (1) to (3) in the Summer Semester, I shall give lectures on the subjects mentioned above. The last class of each semester is reserved for students' presentations. For the rest of the classes, students are expected to prepare in advance the materials scheduled to be read and analysed.
教員から学生へのフィードバック方法	-- 口頭による分析 -- メール等による分析（特に資料の紹介や文献分析の場合）
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習：2時間 復習：2時間 授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。
テキスト	Study Group on Buddhist Sanskrit Literature (Taisho University) ed. <i>Vimalakīrtinirdeśa, Transliterated Sanskrit Text Collated with Tibetan and Chinese translations</i> 梵藏漢対照『維摩経』
参考文献	植木雅俊訳『梵藏漢対照・現代語訳 維摩経』（岩波書店、2011年） 植木雅俊『梵文『維摩経』翻訳語彙典』（法蔵館、2019年） 高橋尚夫『維摩経ノート』（ノンブル社、2017年） Luis Gomez and Paul Harrison transl. <i>The Teaching of Vimalakīrti</i> (Berkeley: Mangalam Press, 2022) Étienne Lamotte transl. <i>The Teaching of Vimalakīrti (Vimalakīrtinirdeśa)</i> (Rendered into English by Sara Boin) (Oxford: Pali Text Society, 1994) Robert A.F. Thurman transl. <i>The Holy Teaching of Vimalakīrti: A Mahāyāna Scripture</i> (Delhi: Motilal Banarsidass Publishers, 1991 [1976])
履修上の注意	The participants must have basic knowledge of English, Sanskrit, and Classical Chinese (as well as preferably Classical Tibetan). (止むを得ない状況により、オンライン授業を行うことがあります。)
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23016
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7A2-8 (1-3)
時限	月曜日 5時限目
担当教員氏名	デアヌ フロリン 教授
授業題目	Early Yogācāra Literature 初期瑜伽行派文献
授業の目的・概要	We shall read passages from the <i>Śrāvakabhūmi</i> , a key text in the history of the earliest Yogācāra tradition. The <i>Śrāvakabhūmi</i> gives an ample presentation of the meditative practices and theories of the (mostly Sarvāstivāda-related) Śrāvakayāna contemplatives. In spite of its content and origins, the <i>Śrāvakabhūmi</i> was included into the <i>Yogācārabhūmi</i> , one of the foundational treatises of the Yogācāra-Vijñānavāda school and contributed to the formation of its system of spiritual cultivation.
到達目標	-- Deepen knowledge of Buddhist philology and canonical languages -- Build up the skills necessary for critical editions and annotated translations (deciphering the MS and collating Skt. Tib. and Ch.). -- Deepen the understanding of the Buddhist teachings and practices in their historical development.
授業計画	<p style="text-align: center;">Summer Semester 夏学期</p> <p>(1) The <i>yogācāra</i> tradition and the formation of the Yogācāra school (2) Introduction to the <i>Śrāvakabhūmi</i>: Sanskrit manuscript, Indic script, editions of primary sources, translations, and secondary literature. (3) Introduction to the <i>Śrāvakabhūmi</i>: formation, historical background, and key doctrines and practices (4)-(9) Readings from the <i>Śrāvakabhūmi</i> (Shukla ed. p. 68, 1.1~p. 70.2) (10)-(14) Readings from the <i>Śrāvakabhūmi</i> (Shukla ed. 70.3-73.18) (15) Students' presentations</p> <p style="text-align: center;">Winter Semester 冬学期</p> <p>(1)-(7) Readings from the <i>Śrāvakabhūmi</i> (Shukla ed. 73.19-79.15) (8)-(14) Readings from the <i>Śrāvakabhūmi</i> (Shukla ed. 79.16-86.10) (15) Students' presentations</p>
授業の方法	-- In the first three classes of the Summer Semester, I shall give introductory lectures on the subjects mentioned above. -- The last class of each semester is reserved for students' presentations. - -- For the rest of the classes, students are expected to prepare in advance the materials scheduled to be read and analysed. We shall read the text in Sanskrit and Classical Chinese comparing it with the Tibetan translation whenever necessary. Attention will also be paid the doctrinal content, tracing various ideas and practices to their canonical roots and Abhidharmic developments and discussing their influence on later Buddhist texts.
教員から学生へのフィードバック方法	-- 口頭による分析 -- メール等による分析 (特に資料の紹介や分析の場合)

学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習：2時間 復習：2時間 授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。
テキスト	声聞地研究会 1998 『瑜伽論 声聞地 第一瑜伽処—サンスクリット語テキストと和訳—』 彌勒菩薩説《瑜伽師地論》玄奘譯 T vol. 30 (No. 1579) K. Shukla ed. <i>Śrāvakabhūmi of Ācārya Asaṅga</i> F. Deleanu, <i>The Chapter on the Mundane Path (Laukikamārga) in the Śrāvakabhūmi: A Trilingual Edition (Sanskrit, Tibetan, Chinese), Annotated Translation, and Introductory Study</i> (Handouts and/or pdfs of materials will be distributed in class.)
参考文献	For bibliographical data, see Deleanu 2006. Updates will be given in the seminar.
履修上の注意	The participants must have good knowledge of Sanskrit and Classical Chinese. Knowledge of Classical Tibetan and Classical Japanese (<i>kundoku</i> style) will also come in handy, as we shall also consult translations in these classical languages. Last but not least, basic knowledge of English is also important. (止むを得ない状況により、オンライン授業を行うことがあります。)
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23017
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学演習 2単位
科目ナンバリング	7A2-8 (1-3)
時限	火曜日 3時限目
担当教員氏名	Robert Kritzer 客員教授 (京都ノートルダム女子大学名誉教授)
授業題目	Readings on Dependent Origination in <i>Yogācārabhūmi</i>
授業の目的・概要	The formula of dependent arising, specifically in relation to rebirth, is discussed in depth in both abhidharma and Yogācāra texts. The first section of the exposition of dependent origination in <i>Savitarkādhībhūmi</i> of <i>Yogācārabhūmi</i> is a detailed account of the causes of rebirth from the past life to the present life and from the present life to the future life, and of going to purification from the present life.
到達目標	This course is intended to introduce students to early Yogācāra thinking about rebirth and to provide practice in reading a Sanskrit doctrinal text with reference to its Chinese and Tibetan translations and a Korean (Chinese) commentary.
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Reading in <i>Ybh</i>: Introduction to the section and the first part of the account of the transition from the past life to present life 3. Reading in <i>Ybh</i>: the second part of past life to present life 4. Reading in <i>Ybh</i>: the third part of past life to present life 5. Discussion of the the account of the transition from the past life to the present life 6. Reading in <i>Ybh</i>: the first part of present life to future life 7. Reading in <i>Ybh</i>: the second part of present life to future life 8. Reading in <i>Ybh</i>: the third part of present life to future life 9. Discussion of the account of the transition from the present life to the future life 10. Reading in <i>Ybh</i>: the first part of going to purification 11. Reading in <i>Ybh</i>: the second part of going to purification 12. Reading in <i>Ybh</i>: the third part of going to purification 13. Discussion of going to purification 14. General discussion of the differences among the Sanskrit, Tibetan, and Chinese texts 15. General discussion of the contents of the entire section and final comments
授業の方法	Primarily text reading and discussion, with some lecture
教員から学生へのフィードバック方法	-- 口頭による分析 -- メール等による分析 (特に資料の紹介や分析の場合)
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy
成績評価方法・基準	平常点 (授業中の発表を含む) にて通年で評価

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習：2時間 復習：2時間 授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。
テキスト	声聞地研究会 1998 『瑜伽論 声聞地 第一瑜伽処—サンスクリット語テキストと和訳—』 彌勒菩薩説《瑜伽師地論》玄奘譯 T vol. 30 (No. 1579) K. Shukla ed. <i>Śrāvakabhūmi of Ācārya Asaṅga</i> F. Deleanu, <i>The Chapter on the Mundane Path (Laukikamārga) in the Śrāvakabhūmi: A Trilingual Edition (Sanskrit, Tibetan, Chinese), Annotated Translation, and Introductory Study</i> (Handouts and/or pdfs of materials will be distributed in class.)
参考文献	For bibliographical data, see Deleanu 2006. Updates will be given in the seminar.
履修上の注意	The participants must have good knowledge of Sanskrit and Classical Chinese. Knowledge of Classical Tibetan and Classical Japanese (<i>kundoku</i> style) will also come in handy, as we shall also consult translations in these classical languages. Last but not least, basic knowledge of English is also important. (止むを得ない状況により、オンライン授業を行うことがあります。)
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23018
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7B1-8 (1-3)
時限	金曜日 2時限目
担当教員氏名	斉藤 明 特任教授
授業題目	インド大乘仏教思想史研究
授業の目的・概要	周知のように、非有非無や不苦不楽の中道説は、仏教思想の基本的な立場を表明する。＜縁起＞を根拠にしたこの中道説は、2~3世紀のナーガールジュナ（龍樹）によってその意義が再認識され、『中論』を起点とする「中観」思想をもたらすことになる。4~6世紀には大乘仏教を代表する部派となった瑜伽行・唯識学派と、6世紀以降のインド仏教史に多大な影響力をもった中観学派の両学派が、一面では、中道の本家争いともいえる活発な論議を展開した。この授業では、昨年度に引きつづき、瑜伽行派の思想を基礎づけたヴァスバンドゥ（世親 400-480 頃）作『唯識三十頌』およびスティラマティ（安慧 510-570 頃）の注釈にみる唯識説とその関連思想を、テキストを精読しながら講義する。
到達目標	インド大乘仏教思想史を適確に理解することを旨とする。

授業計画	<p>夏学期</p> <p>1 導入と解説</p> <p>2 <中道>理解をめぐる瑜伽行・唯識派と中観派</p> <p>3-15 『唯識三十頌釈』 <i>Triṃśikāvijñaptibhāṣya</i> 講読</p> <p>冬学期</p> <p>1-15 『唯識三十頌釈』 <i>Triṃśikāvijñaptibhāṣya</i> 講読</p>
授業の方法	講義と関連テキストの講読を中心とし、必要に応じて関連資料を配布して利用する。積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭で質疑応答を行うとともに、コメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点およびレポートにより、通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には3時間、復習には1時間の時間をかけること。
テキスト	H. Buescher, <i>Sthiramati's Triṃśikāvijñaptibhāṣya</i> . ÖSW 768, 2007. その他は、随時プリント配布する。
参考文献	梶山雄一他「唯識三十論」『世親論集』（大乘仏典 15）中央公論社,1976. 桂紹隆他編『唯識と瑜伽行』（シリーズ大乘仏教 7）春秋社, 2012. 斎藤明他編『空と中観』（シリーズ大乘仏教 6）春秋社, 2012. その他は、授業の中で随時紹介する。
履修上の注意	丹念な予習・復習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23019
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7B1-8 (1-3)
時限	金曜日 3時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業題目	原始仏教・初期仏教の思想
授業の目的・概要	原始仏教あるいは初期仏教と称される仏教の思想を概観し、仏教の教理の基礎を理解する。
到達目標	仏典の言語の性格を把握し、文献分析の基礎的方法を理解し、的確な内容分析能力を習得する。
授業計画	夏学期 第1回 概説 第2-6回 仏典の言語 第7-15回 初期仏教の基本教理 冬学期 第1-8回 初期仏教の修道論 第9-15回 初期仏教の社会観
授業の方法	講義と関連文献の講読を中心とし、質問や疑問を出し合って、テーマについての議論を深める。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること
テキスト	授業の中で紹介する。
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	授業に積極的に参加し、十分な学術知識の習得に努めることが望まれます。 コロナウイルス感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	23020
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7B2-8 (1-3)
時限	水曜日 2時限目
担当教員氏名	斉藤 明 教授
授業題目	インド仏教思想関連文献講読
授業の目的・概要	インド仏教思想史上の主要なテキストを講読する。今年度は、昨年度に引き続き、中観学派を確立したバーヴィヴェーカの著『中観心論』 <i>Madhyamakahrdayakārikā</i> の中の第4「声聞の真実確定[説]への[批判的]入門」章を、注釈『論理炎論』 <i>Tarkajvālā</i> とともに講読する。同章は著者が展開する大乘仏説論、および注釈において詳説される部派分裂史に関する資料としても貴重である。同章の内容と背景を分析・解説しながら、丹念に読み進める。サンスクリット語文法に関する基礎知識が望まれる。
到達目標	サンスクリット語で著された仏教論書の読解力を身につけるとともに、適確な内容理解を目指す。
授業計画	夏学期 1 導入と解説 2-15 『中観心論』 <i>Madhyamakahrdayakārikā</i> および注釈『論理炎論』 <i>Tarkajvālā</i> 第4章講読 冬学期 1 導入と解説 2-14 『中観心論』 <i>Madhyamakahrdayakārikā</i> および注釈『論理炎論』 <i>Tarkajvālā</i> 第4章講読 15 総括
授業の方法	演習形式を基本とし、それぞれの文献の内容および研究史に関する解説を交える。授業では、テキストの読解ならびに内容に関する積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭で質疑応答を行うとともに、コメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点およびレポートにより、通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には4時間、復習には1時間の時間をかけること。
テキスト	M. D. Eckel, <i>Bhāviveka and His Buddhist Opponents</i> , Harvard Oriental Series 70, 2008. その他は、随時プリント配布する。
参考文献	斎藤明「中観思想の成立と展開」『空と中観』（シリーズ大乘仏教6）春秋社, 2012, pp. 3-41. その他は、授業の中で随時紹介する。
履修上の注意	地道な予習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23021
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7B2-8 (1-3)
時限	木曜日 2時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業題目	Kalpanāmaṇḍitikā 講読
授業の目的・概要	Kumāralāta 作 Kalpanāmaṇḍitikā を対応する漢訳と対照して読み、初期サンスクリット仏教文学の伝承を理解する。
到達目標	サンスクリット語の読解力をつけ、諸資料を読解分析する能力を身につけることを目的とする。
授業計画	夏学期 第1回 Kalpanāmaṇḍitikā 文献概説 第2回 ブラーフミー写本読解の基礎 第3-15回 Kalpanāmaṇḍitikā 講読 冬学期 第1-15回 Kalpanāmaṇḍitikā 講読
授業の方法	テキストを講読し、漢訳との対応を分析し、問題点を議論する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	Lüders, Heinrich: Bruchstücke der Kalpanāmaṇḍitikā des Kumāralāta. (Kleinere Sanskrit-Texte II). Leipzig: Deutsche Morgenländische Gesellschaft, 1926.
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	丹念な予習と復習が望まれます。 コロナウイルス感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	23022
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7C1-8 (1-3)
時限	火曜日 5時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	経録研究—『大周録』と『開元録』—
授業の目的・概要	<p>中国で編纂された経典目録は『開元録』が指標となっているが、その成立に関しては未だ詳細な研究がなされていない。撰者智昇の『大周録』批判を軸に考察すると『開元録』の性格が如実に見えてくる。『開元録』で書目等について詳細に論じている箇所は大半が『大周録』である。これは武周時代から再び唐朝に戻る玄宗時代の政治的状況と軌を一にした動きが反映しているとみるべきであろう。</p> <p>それらの箇所は概ね正鵠を射ているが、他の箇所については費長房の『歴代三宝紀』等は無批判に引用し誤りが多い。その検討も重要である。</p> <p>また日本古写経の『大周録』には現行本と異なる形態を有している伝本が存しているが、その性格について考察することも重要である。</p>
到達目標	『開元録』は開元十八年(730)に成立した経典目録であり、その後の大蔵経研究にとって必須の経録となったが、実は大きな問題点が含まれていることが近年明らかになってきた。それらの事例について把握できるよう展開していく。その前提となった『大周録』について問題点を把握できるようになることが到達目標である。
授業計画	<p>夏学期：①経録の歴史。②～④日本古写経本『大周録』の検討。⑤～⑥諸本『大周録』の検討。⑦～⑩『大周録』各巻の検討。⑪～⑮『開元録』における『大周録』批判。</p> <p>冬学期：①～⑩『開元録』における『大周録』批判(続き)。⑪～⑮『開元録』の『大周録』批判のまとめ。</p>
授業の方法	講義および演習形式で授業を行う。受講者は事前に与えられた課題について準備してくることが求められる。
教員から学生へのフィードバック方法	担当箇所の発表後に整理した訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって訳注が一定程度に完成することを期す。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	レポートに平常点(授業への積極参加)を加味して通年評価
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要な時間	予習にはテキストデータだけの読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して訳注を完成させる。それに要する時間は2時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。
テキスト	テキストを随時配布
参考文献	林屋友次郎『経録研究』(岩波書店。昭和16年)。

	川口義照『中国仏教における経録研究』（法蔵館。平成12年）。 『開元釈教録』（中国仏教経典籍選刊。中華書局。2019年） 羅凌編『開元釈教録校注』（崇文書局。2016年）
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23023
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7C1-8 (1-3)
時限	金曜日 3時限目
担当教員氏名	池 麗梅 教授
授業題目	漢文大蔵経史研究—10～14世紀
授業の目的・概要	東アジア仏教にとって、漢文大蔵経を中心とする漢文仏教典籍はその思想文化の源流であり、また常に思想・信仰上の拠りどころ、基盤であり続けてきた。この授業では、漢文大蔵経の歴史を俯瞰した上で、特に10から14世紀にかけて現れた刊本大蔵経を中心に、それらの成立・変遷や、周辺諸国への伝播と後世への影響などについて、体系的に解説する。
到達目標	10～14世紀の漢文大蔵経史を俯瞰的に理解することを目指す。
授業計画	夏学期 第1-3回 漢文大蔵経史の概説 第4-8回 金版大蔵経の研究史 第9-13回 普寧寺版大蔵経の雕造史 第14-15回 ディスカッション・総括 冬学期 第1回 復習と概説 第4-8回 元代官版大蔵経の雕造史 第9-13回 元版大蔵経研究の展望 第14-15回 ディスカッション・総括
授業の方法	講義と関連文献の講読を中心とし、必要に応じて参考資料も配布する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/

成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	野沢佳美『印刷漢文大蔵経の歴史—中国・高麗篇』、東京：立正大学情報メディアセンター、2015年。
参考文献	李富華・何梅『漢文仏教大蔵経研究』、北京：宗教文化出版社、2003年。 李際寧『仏経版本』（中国版本文化叢書）、南京：江蘇古籍出版社、2002年。 京都仏教各宗学校連合会編『新編大蔵経—成立と変遷』、京都：法蔵館、2021年。
履修上の注意	予習・復習と、積極的な授業参加が望まれる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23024
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7C1-8 (1-3)
時限	木曜日 3時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業題目	日蓮『開目鈔』講読
授業の目的・概要	『開目鈔』は日蓮の主著の一つで、佐渡流罪のさなかに、『法華経』の行者としての確乎とした自覚と、末法における『法華経』流布を宣言した書で、本書を講読することによって日蓮の思想形成の後を辿ることを目的とする。
到達目標	テキストを正確に読み取り、その内容の理解に努める。
授業計画	前期 15 週で昭和定本の 535～571 頁を目処に、後期授業で 571～609 頁の最後まで読了したい。
授業の方法	担当者を決めて、テキストを最初から読んでいく。参考書も利用しながら文意の把握に努める。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に 4 時間をかけること
テキスト	昭和定本『開目鈔』（pp.535-609）
参考文献	教場にてその都度指示する。
履修上の注意	予習のうえ、出席励行のこと。
連絡方法	教場にて指示する。

科目番号	23025
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7C2-8 (1-3)
時限	木曜日 3時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	戒律文献の研究
授業の目的・概要	<p>東アジア仏教において戒律の展開は非常に注目すべき内容を含む事象である。インド仏教の律文献を中心とした展開を東アジアにそのまま伝承展開することは困難であった。そのため種々なる事象が現れた。疑経はその一つの展開であるが、解釈においても諸律の中から随時採用するなど苦心した形跡が多々見られる。それらの『梵網経』と『出要律儀』の遺文から考察していく。</p> <p>日本にあっても最澄の大乘戒壇建立の発案もそれらの大きな展開の一つである。最澄が依拠した『大唐西域記』を検討する。</p> <p>本研究では律文献の漢訳から南北朝隋唐を経て、日本仏教への展開までを概説していく。</p>
到達目標	<p>インド仏教から伝訳された広律の理解を経て中国仏教では多様な展開をすることになる。その理由と現実世界からの要請とが交渉し合い隋末唐初に至ってほぼ方向性が見えてくる。南山律はその代表である。中唐になってインド仏教の根本説一切有部律が義浄に依って大半翻訳された。この律がすでに定着したと想定される南山律とどのように展開するのか各自問題意識を持つことが求められる。</p> <p>さらに日本仏教の戒律展開史の最初の起点となる最澄の問題意識を闡明にすることが求められる。</p> <p>以上が到達目標でもある。</p>
授業計画	<p>夏学期：①広律の漢訳。②～④釈道安の問題意識。⑤～⑥インド仏教の規範性と中国仏教。⑦～⑩律関係の疑経。 ⑪～⑮『梵網経』の問題。</p> <p>冬学期：①～③『出要律儀』の問題。④～⑥智首禅師と道宣 ⑦～⑩道宣撰『行事鈔』。⑪～⑮日本仏教と戒律。</p>
授業の方法	講義および演習形式で授業を行う。受講者は事前に与えられた課題について準備してくることが求められる。
教員から学生へのフィードバック方法	担当箇所の発表後に整理した訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって訳注が一定程度に完成することを期す。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習にはテキストデータだけの読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して訳注を完成させる。

	それに要する時間は2時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。
テキスト	テキストを随時配布
参考文献	土橋秀高『戒律の研究』（永田文昌堂。1980年） 石田瑞麿『日本仏教における戒律の研究』（在家仏教協会。1963年） 佐藤達玄『中国仏教における戒律の研究』（木耳社。昭和61年） 諏訪義純『中国南朝仏教史の研究』（法蔵館。1997年） 大内文雄『南北朝隋唐期仏教史研究』（法蔵館。2013年） 船山徹『六朝隋唐仏教展開史研究』（法蔵館。2019年）
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23026
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7C2-8 (1-3)
時限	金曜日 4時限目
担当教員氏名	池 麗梅 教授
授業題目	東アジア仏教文献講読
授業の目的・概要	東アジア仏教文献の代表的なテキストを順次取りあげていくが、今年度は『大蔵経綱目指要録』を講読する。『大蔵経綱目指要録』は、北宋時代の禅僧惟白が作成した現存最古の漢文大蔵経の解題書であり、初期の開宝蔵の目録を復元する上で、不可欠な基礎的文献である。この授業は、同書のテキスト変遷、開宝蔵目録の復原、教禅一致という時代的・思想的背景などを総合的に検討することを目的とする。
到達目標	刊本テキストの翻刻・校訂などの基礎訓練を行い、漢文の現代語訳に習熟し、テキスト内容を正確に理解した上で、的確な解釈もできるようになることを目標とする。
授業計画	夏学期 第1-2回 『大蔵経綱目指要録』の概説 第3-14回 「第三巻」講読 第15回 ディスカッション・総括 冬学期 第1-2回 復習と概説 第3-14回 「第七巻」講読 第15回 ディスカッション・総括

授業の方法	あらかじめ担当者を決めて、講読していく。テキストを翻刻・校訂・現代語訳するだけではなく、内容の分析、その背後にある思想的背景を併せて考察する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	中華再造善本『大蔵経綱目指要録』、中国国家図書館出版社、1992年。
参考文献	夏志前（点校）『大蔵経綱目指要録』、上海古籍出版社、2020年。
履修上の注意	積極的な授業参加と活発な討論が期待される。担当者は発表原稿を人数分用意すること。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23027
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7C2-8 (1-3)
時限	木曜日 4時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業題目	『維摩経文疏』研究 2023
授業の目的・概要	本講は、天台智顛が晩年に晋王廣に献上するために著したとされる『維摩経文疏』を講読し、それによって智顛の教学思想を検討することを目的とする。本書は智顛の最晩年の思想を窺うことのできる重要な『維摩経』注釈書であるが、同じ智顛の『維摩経玄疏』や湛然『維摩経略疏』などに比べてこれまで余り顧みられておらず、国訳もまだない。したがってまず文献を正確に読み進めていくことが必要なので、国訳の訳注原稿を作成しながらその原稿の検討を行うことにしたい。
到達目標	テキストとその注釈書を読んで、漢文訓読に慣れて習熟するとともに、その内容を受講者自身の努力によって十分理解することを目標とする。
授業計画	初めに『維摩経文疏』についての概略を講義し、その後に受講者の原稿発表という形式で演習を行う。本年度は 第1～2講 『維摩経文疏』の解題。 第3～15講 テキスト巻6の途中(500a)から巻末(503c)まで。

	第16～30講 巻7(504a)から同巻末尾(511a)までを講読予定。
授業の方法	演習形式でテキストを講読する。ローテーションを決め、毎回の発表者は分担部分の原稿を作成し、教場でそれを発表する。発表原稿はその場で検討し、添削修正し、それを本講における受講者全員の共通理解とする。 コロナウイルス感染の状況によっては、授業の形態を対面式からオンライン方式に切り替える可能性もある。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること
テキスト	『新纂大日本統藏経』巻十八、pp.500a-503c。
参考文献	教場にて指示する。
履修上の注意	出席励行のこと。発表者は必ず原稿を用意し、受講者全員に配布すること。
連絡方法	初回授業の教場にて指示する。

科目番号	23028
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と生命倫理） 2単位
科目ナンバリング	5-2（1-3）
時限	集中講義（夏学期） ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	土山 泰弘 講師（元埼玉工業大学教授）
授業題目	仏教と生命倫理
授業の目的・概要	人工授精や臓器移植などの生命に関わる技術の進展が人間生活にもたらす意味について、仏教との関わりにおいて検討するのがこの授業の目的である。はじめに仏教倫理の特質について思想史的な観点から概観し、現代の倫理学の諸潮流との比較をおこなう。次いで現代の生命倫理をめぐる諸問題を検討しながら、仏教の生命観の理解を試みる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生命倫理に関わる現実の諸問題が多岐にわたることと、それに対してさまざまな思想的アプローチが可能であることを理解する。 ・生命倫理の問題が仏教の中にどのように位置づけられるかについて、理解を深める。
授業計画	<p><仏教倫理の位置と特徴></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古代インドの共同体倫理と仏教倫理 2. 現代の倫理学と仏教倫理 3. 徳倫理と仏教 4. 無我・縁起説の倫理 5. 業・輪廻思想の倫理 6. 仏教の倫理徳目 <p><生命倫理と仏教></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 脳死 8. 臓器移植 9. 自殺の問題 10. 安楽死 11. 生殖補助医療技術 12. 受胎 13. 胎児 14. 社会倫理と仏教 15. 個人倫理と仏教
授業の方法	上記授業計画の内容に従って、関連資料を配付して概略を説明し、討論を行いながら、知識を深めていく。討論のなかで新しいテーマが出てきたときは、関連する資料を追加して次の回で扱う。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にコメントする。またはメールにて個別にコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて各学期で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には1時間、復習には3時間の時間をかけること。
テキスト	毎回資料を配布する。
参考文献	和辻哲郎『原始仏教の実践哲学』（和辻哲郎全集第5巻） Keown, Damien. : Buddhism and Bioethics. Palgrave 2001.
履修上の注意	特になし。
連絡方法	初回授業の教場にて指示する。

科目番号	23029
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と環境問題） 2単位
科目ナンバリング	6-2（1-3）
時限	集中講義（冬学期） ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	土山 泰弘 講師（元埼玉工業大学教授）
授業題目	仏教と環境思想
授業の目的・概要	環境をめぐる諸問題について、仏教の視点から検討を加えることがこの授業の目的である。はじめに現代の環境問題を概観し、この問題の背景にある科学主義的な思考について、思想史的な立場から検討を行う。次いで仏教の多様な自然観とそれを支える価値意識について理解を試み、現代の環境倫理に対する仏教の貢献について考える。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題に対してアプローチするときには、価値論的な視点が重要であることを理解する。 ・現代の環境倫理が提起する諸問題について、仏教独自の価値意識を考慮しながら理解を深める。
授業計画	<p><環境問題と環境倫理></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境倫理の諸問題 2. 公害病 3. 地球環境問題 4. 放射能汚染 <p><科学技術の性格></p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 科学と価値 6. 科学と技術 7. 科学技術の変貌 <p><仏教の自然倫理></p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 自然観の諸相 9. 古代インドの自然観 10. 不殺生 11. 慈悲 12. 如実知見 13. 植物 14. 仏性 15. 環境倫理と仏教思想
授業の方法	授業は、上に述べた幾つかの大きなテーマに関連する資料を紹介してその概略を説明し、出席者の間で意見を交換しながらより個別のテーマに絞り込んで知識を深めるという方法をとる。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にコメントする。またはメールにて個別にコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて各学期で評価する。

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には1時間、復習には3時間の時間をかけること。
テキスト	毎回資料を配布する。
参考文献	<p>阪本(後藤)純子 『生命エネルギー循環の思想 — 「輪廻と業」理論の起源と形成—』 RINDAS 24, 2015年</p> <p>原実「不殺生考」国際仏教学大学院大学研究紀要 1（1998）pp.1-37.</p> <p>Schmithausen, Lambert : Buddhism and Nature, Studia Philologica Buddhica Occasional Paper Series VII, The International Institute for Buddhist Studies of the International College for Advanced Buddhist Studies, Tokyo, 2003.</p>
履修上の注意	特になし。
連絡方法	初回授業の教場にて指示する。

科目番号	23030
科目名・単位数	文化人類学 4単位
科目ナンバリング	8-4 (1-5)
時限	火曜日 2時限目
担当教員氏名	棚橋 訓 講師 (お茶の水女子大学教授)
授業題目	文化人類学の視点から宗教について考える
授業の目的・概要	<p>仏教を含む宗教の存在は社会科学においても重要な検討課題であり続けている。本講では、社会科学の一翼を担う文化人類学における宗教研究に焦点を当てて授業を進める。夏学期は文化人類学の諸理論を学び、理論諸派の観点の相違に起因する宗教分析の多様性について俯瞰する。冬学期は文化人類学とその関連領域において蓄積されてきた宗教に関する先行研究の精読と再検討を通じて、文化人類学の視点から宗教を考えるための理論枠組みと思考法についての理解を深めていく。</p>
到達目標	<p>受講者には、文化人類学を一つの例示として、社会科学の視点から成される宗教研究の理論と方法について知り、そうした理論と方法を用いて宗教を実証的に、そして相対化して考える技法を身に付けてもらうことを目標とする。</p>
授業計画	<p>【夏学期】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業ガイダンス、社会科学と文化人類学：概観 ②文化進化論と宗教概念 ③文化伝播論と宗教研究 ④歴史個別主義・文化相対主義と宗教研究 ⑤フランス社会学＝民族学と宗教研究 ⑥機能主義・構造機能主義と宗教研究 ⑦文化の型、文化とパーソナリティ：文化論と宗教研究 ⑧新進化主義の宗教研究 ⑨生態人類学と宗教研究 ⑩構造主義人類学と宗教研究 ⑪象徴人類学と宗教研究 ⑫解釈人類学と宗教研究 ⑬マルクス主義人類学と宗教研究 ⑭エスニシティ研究・ナショナリズム研究と宗教研究 ⑮実践理論と宗教研究 <p>【冬学期】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①アニミズム ②儒教 ③ヒンドゥー教 ④仏教 ⑤キリスト教 ⑥イスラーム

	<p>⑦日常を生きるということ（通過儀礼、祖先祭祀、靈魂観）</p> <p>⑧祝うということ（集合的激昂、反構造、コミュニタス）</p> <p>⑨祀るということ（民間信仰、シンクレティズム）</p> <p>⑩呪うということ（呪術、邪術、妖術）</p> <p>⑪病むということ（治癒、病因論、災因論、プラシーボ）</p> <p>⑫語るということ（神話、口承、書承）</p> <p>⑬分け隔てるということ（ジェンダー、境界、浄不浄）</p> <p>⑭魅了するということ（王権、聖者、巡礼）</p> <p>⑮抗うということ（権力、抵抗、サバルタン）</p>
授業の方法	<p>夏学期・冬学期ともに講義・講読・個人発表・議論を柱に、講義と演習を折衷したかたちで進めていくが、夏学期は講義と議論を主軸に、冬学期は講読・個人発表と議論を主軸とする。授業各回は授業計画に記したトピックに錨を下ろして進めるが、博士後期課程の授業であることから、受講者の専門領域・要望に応じて柔軟に各回のトピックにおいて授業内容は幅を広げていきたいと考えている。詳細については初回講義時の授業ガイダンスで触れる。</p>
教員から学生へのフィードバック方法	<p>授業中にその都度口頭でコメントする他、レポートは添削して返却する。</p>
学位授与方針との関連	<p>https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</p>
成績評価方法・基準	<p>冬学期のレポートに平常点を加味して通年で評価。総合評価のうち、冬学期のレポートは 40%、平常点（授業中の発表と発言を含む）は 60%の比重。</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	<p>各回授業の講読内容については事前に知らせるので、発表者であるか否かに拘わらず、これを予習しておくこと。授業後、その内容を復習すること。予習に 3 時間、復習に 2 時間の時間をかけること。</p>
テキスト	<p>夏学期は岸上伸啓（編著）『はじめて学ぶ文化人類学—人物・古典・名著からの誘い』（ミネルヴァ書房、2018 年）、冬学期は関一敏・大塚和夫（編著）『宗教人類学入門』（弘文堂、2004 年、品切れのため棚橋が手配して配付）を基本テキストとし、随時、関連する専門論文等を追加配付する。</p>
参考文献	<p>佐々木宏幹『宗教人類学』（講談社学術文庫、1995 年）、大塚和夫『近代・イスラームの人類学』（東京大学出版会、2000 年）、吉田匡興・石井美保・花渕馨也（編著）『宗教の人類学』（春風社、2010 年）、長谷千代子・別所裕介・川口幸大・藤本透子（編著）『宗教性の人類学—近代の果てに、人は何を願うのか』（法蔵館、2021 年）</p>
履修上の注意	<p>「授業の目的」・「授業の方法」・「到達目標」をよく理解したうえで、授業時には積極的に発言することを望む。</p>
連絡方法	<p>質問、面談希望等は授業時に申し出るか、以下のメールアドレス宛てに連絡のこと。tanahashi.satoshi[at]ocha.ac.jp（「at」は@マークに変えて送信）</p>

科目番号	23101
科目名・単位数	仏教学特殊研究
科目ナンバリング	10-0 (1-5)
時限	水曜日 3時限目 (夏学期)
担当教員氏名	<p>代表者： 藤井 教公 教授</p> <p>落合 俊典 教授 齊藤 明 特任教授</p> <p>池 麗梅 教授 デレアヌ フロリン 教授</p> <p>幅田 裕美 教授 藤井 教公 教授</p> <p>根本 裕史 講師 (広島大学教授 5月17日担当)</p> <p>土屋 太祐 講師 (新潟大学准教授 6月7日担当)</p> <p>米田 真理子 講師 (鳥取大学教授 6月28日担当)</p>
授業の目的・概要	<p>本学教員、並びに外部講師と受講者の学生諸君が現在取り組んでいる仏教学上の研究テーマ、トピックについて研究発表し、それについて全員による質疑応答を行う。その討議を通じて各人が仏教に対する知見を深めることをこの授業の目的とし、また学生諸君にとっての学会発表、論文作成の訓練の場とする。</p>
到達目標	<p>学生諸君が自ら発表し、あるいは他の受講者の発表を聞いて、研究発表に慣れるとともに、自身の発表の態度や技術などの向上を目指す。また、仏教学上の諸問題について知見を広め、深い理解に達することを目標とする。</p>
授業計画	<p>初回の時に、教員、学生ともに発表の順番と日程を決め、各自一時間内外を持ち時間として、全体で質疑応答、討論を行う。</p>
授業の方法	<p>初回の授業の時に予め発表者を決める。発表予定者は配付資料などを各自が用意して、パワーポイント、スライド、紙資料など、各自それぞれの方法を用いて発表する。</p>
教員から学生へのフィードバック方法	<p>授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する</p>
学位授与方針との関連	<p>https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</p>
成績評価方法・基準	<p>履修単位は設定されていない。</p>
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及び必要な時間	<p>事前に発表資料やテーマが明らかになっている場合、予習には2時間、復習には2時間程度をかけること。</p>
テキスト	
参考文献	
履修上の注意	<p>全学生は自己の研究上に必須のトレーニングと心得て、必ず出席すること。</p>
連絡方法	<p>初回の授業で説明する。</p>

科目番号	23102
科目名・単位数	仏教学特殊研究
科目ナンバリング	10-0 (1-5)
時限	水曜日 3時限目 (冬学期)
担当教員氏名	代表者： デレアヌ フロリン 教授 落合 俊典 教授 齊藤 明 特任教授 池 麗梅 教授 デレアヌ フロリン 教授 幅田 裕美 教授 藤井 教公 教授 陳 継東 講師 (青山学院大学教授 10月11日担当) 平岡 聡 講師 (京都文教大学教授 11月12日担当) 松本 知己 講師 (早稲田大学非常勤講師 1月17日担当)
授業の目的・概要	本学教員、並びに外部講師と受講者の学生諸君が現在取り組んでいる仏教学上の研究テーマ、トピックについて研究発表し、それについて全員による質疑応答を行う。その討議を通じて各人が仏教に対する知見を深めることをこの授業の目的とし、また学生諸君にとっての学会発表、論文作成の訓練の場とする。
到達目標	学生諸君が自ら発表し、あるいは他の受講者の発表を聞いて、研究発表に慣れるとともに、自身の発表の態度や技術などの向上を目指す。また、仏教学上の諸問題について知見を広め、深い理解に達することを目標とする。
授業計画	初回の時に、教員、学生ともに発表の順番と日程を決め、各自一時間内外を持ち時間として、全体で質疑応答、討論を行う。
授業の方法	初回の授業の時に予め発表者を決める。発表予定者は配付資料などを各自が用意して、パワーポイント、スライド、紙資料など、各自それぞれの方法を用いて発表する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	履修単位は設定されていない。
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及び必要な時間	事前に発表資料やテーマが明らかになっている場合、予習には2時間、復習には2時間程度をかけること。
テキスト	各自の発表資料にて記載
参考文献	各自の発表資料にて記載
履修上の注意	全学生は自己の研究上に必須のトレーニングと心得て、必ず出席すること。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	23103
科目名・単位数	日本語 I 4 単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	火曜日 2 時限目、金曜日 2 時限目
担当教員氏名	宮田 聖子 講師 (東京外国語大学非常勤講師)
授業題目	初級・中級前期の日本語 –初級文型とその応用–
授業の目的・概要	日本語レベル初級及び中級初期 (学習時間 0~400 時間未満) の学生を対象に行う。 日本語の基本構造を習得し、四技能 (話す・聞く・読む・書く) を養う活動へ発展させる。自分の意見をまとめ発表する力を身につける。 日常生活や学内での基本的な活動が問題なく行える日本語コミュニケーション能力の獲得を目指す。
到達目標	日本語能力試験 N2 レベル程度の日本語の力の獲得
授業計画	夏学期 第 1 回～第 4 回 初級文型・「話す・聞く」技能 第 5 回～第 8 回 初級文型・「読む・書く」技能 第 9 回、第 10 回 初級文型・四技能 第 11 回～第 15 回 中級文型・四技能 冬学期 第 1 回～第 3 回 中級文型・四技能 第 4 回～第 7 回 総合・読解・論述 第 8 回～第 13 回 総合・読解・論述 第 14 回、第 15 回 総合・プレゼンテーション
授業の方法	テキストを使用しつつ、クラウド上の共有ドキュメントに学生からのアウトプットとそれに対するフィードバック、重要項目の解説などを記録していく。初級前半においては、予習確認の小クイズ、文法の学習、応用練習を行う。読解の授業では語彙クイズ、読解、文法確認、討論、作文、発表の順に行う。また、毎回宿題を課す。

教員から学生へのフィードバック方法	授業中に、あるいはクラウド上のドキュメントにて、基本的にはクラスで共有して行う。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、宿題およびこれから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること
テキスト	受講生の日本語レベルに応じて決定する。
参考文献	『みんなの日本語初級Ⅰ，Ⅱ』スリーエーネットワーク 各国語版文法解説 『TRY! 日本語能力試験 N3 文法から伸ばす日本語』アスク出版 『中級へ行こう』スリーエーネットワーク
履修上の注意	授業はクラウド上の共有ドキュメントを使用して行う。各自、インターネットにアクセスし共有ドキュメントに日本語を打ち込めるようにPCなどを持参すること。 出席励行。宿題を必ず提出すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23104
科目名・単位数	日本語Ⅱ 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	火曜日 3時限目
担当教員氏名	宮田 聖子 講師（東京外国語大学非常勤講師）
授業題目	中級後期・上級の日本語 ー学術的活動へー
授業の目的・概要	日本語レベル中級後半（初級基礎文型の習得が終了しており、学習時間が概ね450時間程度）以上の学生を対象に行う。 学術論文の読解ストラテジーを獲得する。また、討論、論評する活動を通してテーマについて論述するスキルと、それを口頭発表するプレゼンテーションスキルを養う。 日本語能力試験に向けて総合的なスキルを伸ばす。 日本での研究活動が十分に行えるより高度な日本語能力の獲得を目指す。
到達目標	日本語能力試験N1 レベル程度の日本語力の獲得
授業計画	夏学期 第1回～第7回 文法 第8回～第15回 読解・能力試験対策 冬学期

	<p>第1回～第7回 能力試験対策</p> <p>第8回～第12回 作文指導</p> <p>第13回～第15回 プレゼンテーション指導</p>
授業の方法	テキストを使用しつつ、クラウド上の共有ドキュメントに学生からのアウトプットとそれに対するフィードバック、重要項目の解説などを記録していく。日本語能力試験対策、読解、文法事項確認、討論、作文を行う。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中に、あるいはクラウド上のドキュメントにて、基本的にはクラスで共有して行う。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、宿題およびこれから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること
テキスト	受講生の日本語レベルに応じて決定する。
参考文献	『みんなの日本語初級Ⅰ，Ⅱ』スリーエーネットワーク 各国語版文法解説 『TRY! 日本語能力試験 N3 文法から伸ばす日本語』アスク出版 『中級へ行こう』スリーエーネットワーク
履修上の注意	授業はクラウド上の共有ドキュメントを使用して行う。各自、インターネットにアクセスし共有ドキュメントに日本語を打ち込めるようにPCなどを持参すること。 出席励行。宿題を必ず提出すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	23105
科目名・単位数	古文・漢文読解 I 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	水曜日 4時限目
担当教員氏名	田戸 大智 講師 (早稲田大学非常勤講師)
授業題目	仏教漢文読解入門
授業の目的・概要	<p>仏教では後漢の頃より仏典の漢訳が開始され、多くの漢訳仏典やそれにもとづく註釈書などが生み出された。仏教思想を解明するためには、正確な読解が要求されることは贅言を要しない。</p> <p>本講義では、伝統的な訓読法を用いて、仏教漢文が読解できるようになることを目的としている。日本では漢文を日本語で解釈するための訓読法が体系化され、仏教漢文もまたこの方法によって理解されてきた。訓読法を習得すれば、文法構造を把握する能力が高まり、感覚的に読むことで起きる間違いを防止できる利点がある。特に日本仏教研究を行うためには、訓読法を習得することが必須である。</p> <p>そこで、訓読による仏教漢文の読解を修練していくために、前期ではまず、テキストにもとづいて基本文法を確認する。次に後期では基本文法を適宜参照しながら、様々な仏教漢文を取り上げ、実践的に訓読法を学習していきたい。後期では、経典や論書、中国の伝記史料、日本の仏教漢文などを読み進めていく予定である。</p>
到達目標	日本の凝然 (1240～1321) が撰述した『八宗綱要』上下2巻 (大日本仏教全書 3 所収) を訓読できる能力の修得を到達すべき目標としたい。
授業計画	<p>前期</p> <p>1 ガイダンス、訓読の必要性</p> <p>2～3 仏教漢文の学習方法、漢和辞典・仏教辞典の使用法と実習</p> <p>4～5 テキストとプリントの実習 (1～3 章)</p> <p>6～7 テキストとプリントの実習 (4～5 章)</p> <p>8～9 テキストとプリントの実習 (6～7 章)</p> <p>10～11 テキストとプリントの実習 (8～9 章)</p> <p>12～13 テキストとプリントの実習 (10～11 章)</p> <p>14～15 テキストとプリントの実習 (12～14 章)</p> <p>後期</p> <p>1 ガイダンス</p> <p>2～3 『生経』・『無量寿経』</p> <p>4～5 『過去現在因果経』・『理惑論』</p> <p>6～7 慧皎『高僧伝』・道宣『集神州三宝感通録』</p> <p>8～9 吉蔵『法華義疏』・基『大乘法苑義林章』</p> <p>10～11 最澄『顕戒論』・空海『弁顕密二教論』</p> <p>12～13 法然『選択本願念仏集』・明恵『摧邪輪』</p>

	14~15 凝然『八宗綱要』・『三国仏法伝通縁起』など
授業の方法	毎回配付する資料にしたがって授業を進める。漢文はすべてノートに書き写し、返り点を付けたり書き下し文に直す作業を繰り返し行う。また声に出して読むことで漢文のリズムを習得する。語彙が不明である場合は、常に漢和辞典や仏教辞典で調べるよう訓練する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントし、訓読の確認を行う。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	講義で配付した資料は、予習と復習を通して繰り返し読み込むことが実力の向上につながる。訓読の基本文法はテキストを適宜参照して解説するが、演習問題は各自復習して頂きたい。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	『句形演習 新・漢文の基本ノート〈二色刷〉』（日栄社、1998）を主なテキストとし、『新・要説文語文法〈五訂新版〉』（日栄社、2015）も必携とする。この他、プリントを配付する。
参考文献	加地伸行『漢文法基礎—本当にわかる漢文入門—』（講談社学術文庫、2010）、金岡照光『仏教漢文の読み方』（春秋社、1978）、木村清孝編著『仏教漢文読本』（春秋社、1990）、その他、各辞典などは教場にて指示する。
履修上の注意	①授業では漢文訓読を実習形式で行うので、専用ノートを準備して予習と復習を必ず行う。 ②電子辞書や電子機器類の使用は禁ずる。語彙は必ず辞書で調べるようにする。 ③「古文・漢文読解Ⅱ」の講義を併せて聴講することが望ましい。
連絡方法	メール（初回の授業で確認する）

科目番号	23106
科目名・単位数	古文・漢文読解Ⅱ 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	水曜日 5時限目
担当教員氏名	小島 裕子 講師 (東京都立大学非常勤講師)
授業題目	仏典訓読初学講座
授業の目的・概要	<p>仏典の漢文は記載言語として表わされた古典語(文語)で、たとい現代中国語を母国語として自在に使用しているとしても、その特殊な文章構造の分析を介した完全な理解という点では次元を異にしよう。こと日本においては、漢字文化の受容とともに、その言語表記を享受するため、日本語によって漢文の文章構造を分析し、正確に文意を解釈するための学問が古来より培われてきた。「訓読」である。</p> <p>本講座は、漢文訓読のなかでも、特に寺院文化圏における学僧が行ってきた仏典訓読の学問を視野に入れ、とりわけ学ぶ機会の稀な「漢訳仏典に対する伝統的な訓読法」の習得をめざす。特に、日本語としての文体を整える上で決め手となる「文語文法」(経典読解に特化した)の解説に重点を置いて授業を行う。</p> <p>実例文献に基づく訓読法(訓点を付して訓読する方法)の教授に併行して、訓読に有用な主要辞典(仏教系・国語系)の使用法について教示したり、訓読に対する理解を深めるための「日本語表記の変遷」などにも言及したりすることで、文献資料学を究める受講者各自の研究の将来に資する講義でありたい。</p>
到達目標	<p>貴重な仏教文献資料を詳細に読み解いてゆくために必要とされる日本語表記の習得、各種仏教辞典の特徴を把握し、要語項目を読解して実際の研究に生かす能力を身につけることをめざす。</p> <p>漢文の白文に訓点を付す方法を習得して訓読法の実践に備えるとともに、訓読文の決め手となる文語文法を身に着ける。</p>
授業計画	<p>《夏学期》</p> <p>1 初回到授業の指針を述べる。「望月仏教大辞典」から要語を選び、引用された漢文の訓読体を正しい文法理解によって読むことができるか、また旧漢字の表記に対応できるかなどの問題定義を行ない、以後の具体的な授業に臨む姿勢を確認する。</p> <p>2 「訓読」という学問① 大正新脩大蔵経の漢訳仏典に対する国訳一切経・国訳大蔵経・新国訳大蔵経・仏典講座等の紹介、解説。</p> <p>3 「訓読」という学問② 具体的に学僧が訓点を付した写本・版本を紹介し、「訓読」とは何かを学ぶ意識を備える。</p> <p>4 自ら「訓読」を行うために必要な主たる仏教学系辞典、および国語学系辞典の紹介を行なった上で、活用の実践に入る。</p> <p>以下、5回より演習と講義</p> <p>5-9 仏典に頻出する【「動詞活用表」作成プロジェクト】 義浄訳『金光明最勝王経』(影印)を訓読法習得のための底本に据え、各品の訓読箇所を抽出、訓読の仕方について実際に辞書を引きながら学び、活用法を詳細な文法の解説を通して習得する。以下、動詞表は講義で遇した諸経典内の動詞についても随時書き込みを加え、年間を通して完成。</p> <p>10-12 仏典に頻出する仮定表現について、動詞の活用の型を徹底的に学び、それに伴う助動詞も同時に習得する。</p>

	<p>13-15 仏典に頻出する受身・使役などの助動詞の様々な事例・訓読、および関連の文法を習得する。 《冬学期》 夏学期に引き続き、義浄訳『金光明最勝王経』（影印）を底本に以下の項目を実践する。</p> <p>16-17 仏典の型「六時成就（如是・我聞・一時・佛・在某所・与某衆俱）」、「白佛言」、「白～曰」などを学ぶ。</p> <p>18 仏典に頻出する副詞（否定・時間・範囲・程度・状態・語気）について概論的な講義を行い、以後の講義に備える。</p> <p>19-21 仏典に頻出する「否定副詞」事例・訓読、関連の文法 22-24 仏典に頻出する「時間副詞」事例・訓読、関連の文法 25-27 仏典に頻出する「程度副詞」事例・訓読、関連の文法 28-29 仏典に頻出する「状態副詞」事例・訓読、関連の文法 30 年度内総括 今年度の「動詞活用表」の完成</p>
授業の方法	<p>講義と演習（習熟のための練習）を繰り返すことで、受講者のリテラシーの向上をはかる。年間を通して、一般古典の文法書に挙がる用例では不十分な「仏典に頻出する動詞」について、その活用と仮名訓を一覧できる独自の【「動詞活用表」作成プロジェクト】を受講生とともに遂行、当該教室における成果として構築してゆく。表の作成は文字の記入のみに止まらず、声に出して復唱する実践を伴うことで、記憶的な効果へと繋ぐ。</p>
教員から学生へのフィードバック方法	<p>授業内に必要に応じてコメントをするほか、メールなどでの相互連絡の上、個別に対面で対応することも可。</p>
学位授与方針との関連	<p>https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点にて通年で評価。</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	<p>各自、毎回の講義で配布する参考資料をファイリングし、受講前の予習として必ず目を通した上で授業に参加すること。蓄積されゆく資料を重ねて通読することを通して、次第に理解は深まる。受講後は必ず授業内容を反芻し、次回の授業に備えること。準備学習として、予習に120分、復習に120分程度の時間を要する。</p>
テキスト	<p>訓点入りの仏典資料（影印）を配布し、「訓読とは何か」を理解するための主要テキストとする。補足テキストとして望月信亨『仏教大辞典』の要語項目の配布。文語文法の解説書として『新・要説文語文法〈五訂新版〉』（日栄社）、辞書として『新版古語辞典〈机上用〉』（角川書店）を各自の必携とする。</p>
参考文献	<p>中村元-仏教語大辞典、望月信亨-仏教大辞典、織田得能-仏教大辞典、岩本裕-日本仏教語辞典など各種仏教系辞典。日本国語大辞典-小学館、新漢和大字典-学研、日本語文法大辞典-明治書院など各種国語系辞典。異体字やくずし字辞典などの字典類、および古辞書類など。講義時に随時、紹介してゆく。</p>
履修上の注意	<p>本講座は、仏教文献資料学を遂行するために必要な基礎を学ぶ留学生の読み書き、リテラシーの向上をめざして開設する。日本語習得のステップを踏みながらの受講であることを配慮し、説明などは懇切に行ってゆくことを心がけるが、基礎を修めるということにおいて、日本語を母国語とする者と何らレベルの上で変わらぬ有益な内容を提示することを断っておきたい。 併設の「古文・漢文読解Ⅰ」とともに受講することが望ましい。</p>
連絡方法	<p>初回の授業で説明する。</p>

科目番号	23107
科目名・単位数	サンスクリット語 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	月曜日 3時限目
担当教員氏名	宮本 久義 講師 (元東洋大学教授)
授業題目	サンスクリット語入門
授業の目的・概要	サンスクリット語の文法を学習し、インド哲学仏教学文献の読解力を身につけることを目的とする。サンスクリット語はインドの文学、思想、宗教を育み、サンスクリット文化という言葉があるように、インド人が構築した有形・無形の価値観の理解に必須の言語である。インドではサンスクリット語の習得には三生かかるといわれている。これは大分誇張されたことばではあるが、実際文法規則が多いのは事実である。しかし、他の言語と同様、覚える規則は最小限に絞り、系統立てて学習することにより、十分習得可能な言語である。本講は初学者のために開講するが、復習のために参加したいという受講生も対象とする。
到達目標	サンスクリット文法の基礎を習得し、文法書と辞書を使用して各自が研究対象とする文献を研究する際の読解力を養うことを目標とする。
授業計画	夏学期 第1回：インドの言語について 第2～3回：文字と発音 第4回：母音の階梯、絶対語末 第5～7回：連声法 第8～10回：名詞・形容詞の変化 -a- 語幹 第11～13回：名詞・形容詞の変化 -a- 語幹以外の語幹 第14～15回：代名詞、数詞 冬学期 第1回：動詞の概要 第2～5回：第1次活用法（現在・アオリスト・完了・未来） 第6～8回：第2次活用法（受動・使役） 第9～11回：準動詞（過去分詞など） 第12～13回：複合語 第14回：韻律 第15回：総括
授業の方法	長柄行光著『サンスクリット文法』に従って解説する。補足すべき点があれば、資料を配布する。文法事項解説の進み方に合わせて、練習問題にも取り組んでもらう。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。

学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習・復習ともに 120 分程度の時間をかけてほしい。
テキスト	長柄行光著『サンスクリット文法』2002 年。私家版（非売品）なので、受講生にはこちらで配布する。
参考文献	Charles Rockwell Lanman, <i>A Sanskrit Reader: Text and Vocabulary and Notes</i> , Harvard University Press, 1884.（リプリント版が廉価で入手可能） 辻直四郎『サンスクリット文学史』岩波全書、1973 年
履修上の注意	文法の学習において、予習はその日の授業で何を学ぶのかを予め把握しておく作業である。それゆえ長い時間をかける必要はないが、わからない点を押さえておくことが肝要。いっぽう、復習は習ったことが文法規則全体のどの部分を構成するのかをしっかりと押さえ、さらに最小限暗記すべき規則を暗記する努力をしなければならないので、十分な時間をかけることが望ましい。また語学学習得という授業の性質上、欠席はできる限りしないように。受講生は疑問点が残らないように、何度でも質問していただきたい。 ※コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインで授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	23108
科目名・単位数	古典チベット語 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	月曜日 4時限目
担当教員氏名	崔 境眞 講師 (東京大学特任研究員)
授業題目	古典チベット語入門
授業の目的・概要	チベット語には大別して、およそ 8 世紀以降の文献や碑文に記された文語と、現在の中国チベット自治区およびその周辺諸省、ならびにネパール、ブータン、インド等の中国以外の地で話される口語とがある。ここにいう「古典」チベット語とは、主に 8 世紀から 18 世紀頃 までの仏典を中心とする諸文献・碑文が用いるチベット文語をさす。授業では、この古典チベット語文法を講義し、受講者がチベット人の撰述文献とともに、チベット語翻訳仏典を読むための基礎力を養うことを目的とする。
到達目標	古典チベット語文法の基礎を学び、チベット撰述文献および翻訳仏典を読むための、的確な読解力を得ることを目標とする。
授業計画	夏学期 1: 授業説明、序論 (チベット語について) 2-15: 古典チベット語文法 冬学期 1-5: 古典チベット語文法 6-15: 古典チベット語文献講読
授業の方法	文法については講義を中心とし、文献講読については受講者全員で輪読する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点により通年で評価。
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及び必要な時間	予習には 4 時間、復習には 1 時間ほどの時間をかけること。
テキスト	授業中に配布する。
参考文献	星泉『古典チベット語文法—『王統明鏡史』(14 世紀)に基づいて—』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2016。
履修上の注意	コンスタントな授業出席を望む。
連絡方法	初回の授業で説明する。